

ご挨拶 第16回(函館)大会開催に際して

この度、日本海セトロジー研究会大会を函館にお招きすることができ、大変うれしく思います。函館は、ご存じのように、1854年の日米和親条約によっていち早く開港した地ですが、開国の背景には日本近海の豊富なマッコウクジラ資源を米国船が利用したいという思惑が強く働いていました。特に、日本海における捕鯨を行うための中継基地として、米国は当初より函館の開港を視野に入れていたようです。

現在の函館の家庭の正月の食卓には、くじら汁は欠かせません。また、2004年12月から函館市に合併された南茅部町では、定置網にヒゲクジラが混獲されることも少なくありません。また、毎年5月～6月にはツチクジラ漁が函館を基地として行われており、年間8～10頭が函館に水揚げされます。このように以前より鯨類への関心が高い中、昨年春には捕鯨船日新丸を初めとする南氷洋捕獲調査船団が入港し、一般公開されました。そしてこれを機に、定期的に学校給食に鯨肉料理を出すなど、市民の鯨類への関心は益々高まっているように思います。

函館は、北太平洋と日本海を結ぶ津軽海峡に面しており、対馬海流・リマン海流・親潮の3つの異なる海流が流れ込んでいることなど、水産・海洋に関する研究を行う上で貴重な地理的・自然的条件に恵まれています。また、北海道大学大学院水産科学研究院などの学術・研究機関、水産業、水産食料品製造業や造船および関連する機械器具製造業など、水産・海洋に関する独特な産業が集積し、共同研究などの活動が活発に行われています。このような函館市の優位性をさらに伸ばすため、現在、函館市は国際水産・海洋都市構想を立案し、海洋都市形成を目指しています。

このように水産・海洋に関する学術研究を推進しようとしている函館において、このたび、古くから関連が深かった日本沿岸海域の鯨類に関する学術研究大会が開催され、鯨類学の世界的権威であるロバート・ブラウネル博士を初め、道内外の鯨類研究者が一同に会すること、また、一般市民に対する公開講演会を実施していただくことの意義は非常に大きいと言えます。本会が盛会で有意義な会となりますことを祈念いたします。

平成17年6月10日

北海道大学大学院水産科学研究院

研究院長 山内皓平

セト研第 16 回(函館)大会に寄せて

日本海セトロジー研究会第 16 回大会を念願の北海道で開催するにあたり、お世話くださいました実行委員会（委員長：松石隆、委員：宇仁義和・蛇沼俊二・水島未記）ならびに北海道大学松石研究室・鯨類研究会の皆様、補助金を交付してくださった函館市と金沢医科大学、公開講演会をご後援くださった函館市、函館市教育委員会、北海道新聞函館支社、函館新聞社、朝日新聞北海道支社、日本経済新聞函館支社、毎日新聞北海道支社、読売新聞函館支局、FMいるか、NHK函館放送局、函館国際水産・海洋都市構想推進協議会、財団法人函館市文化・スポーツ振興財団、北海道大学大学院水産科学研究院に厚く御礼申し上げます。

公開講演会で「日本周辺のコククジラの現状」と題して特別講演をしていただくロバート・ブラウネル博士は、セト研の山田格漂着専門委員長を介して今回お招きすることになりました。鯨類学の世界で重要なトピックスのひとつとなっているコククジラについてのご講演を今回拝聴する機会に恵まれ、まことに幸いに存じます。また、これに先立つ特別セッションでは、今年 2 月に羅臼町相泊に集団座礁したシャチをテーマに 4 人の方々がお話しさいます。時宜を得たご講演に大いに期待を寄せるものです。

さて、セト研大会は第 9 回目に九州福岡市で開催されたのを皮切りに、開催地を発祥地の北陸三県(福井・石川・富山)・新潟県に限らず全国に広げ、第 13 回は東京、第 14 回は鳥取市で開催、そして今回の第 16 回大会は函館市で開催することになりました。これは、本会がフィールドの中心を日本海におきながらも全国的に活動を展開してきたことの表れです。この実態に合わせて、「日本海セトロジー研究会」を「日本セトロジー研究会」に改称するとともに、各地に支部をおくことができるようになります、という議案を今大会に伴う総会に提出いたします。

私は平成 9 年度総会(1997)で山田致知初代代表、児玉前代表のあとを受けて第三代の代表に就任しました。就任前、役員の間では 50 歳代の会員が代表になるのがよいだろうという意見が有力でしたので、私が候補として推薦されたという経緯がございます。4 期 8 年間務めた今年 4 月にちょうど還暦を迎えたので、今総会では 50 歳代の会員を第四代の代表に推薦してご承認を得たいと存じます。

今回の函館大会がセト研の新たな発展の契機となりますように、皆様方のいっそうのご協力をお願い申し上げます。

平成 17 年 6 月 18 日

日本海セトロジー研究会代表

金沢医科大学人間科学教授 平 口 哲 夫